

<今回>271回目 2019年12月9日(月)15時~18時 602号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p113 第2章 倭の5王 より

<前回>270回目(19-11-25) 出席者 5名

資料(19-11-25-1)前回のまとめ(清水)

-2) 予定表(清水)

-3) 歴博と千葉古墳(清水)

A 報告 高山氏は先日の大嘗祭が終わり取り壊される前に、一般公開されるので、本日読書会までの時間に見学に行った。建物は由紀殿、主基殿の二つは全く同じものと思っていたが、千木の部分の切り方が異なっていた。由紀殿は水平(内削)主基殿は垂直(外削)だったようだ。伊勢の内宮は水平なので祭神は女性で鯉木も10本の偶数だが、鯉木の数は同じだったようだ。何しろ満員で後ろから見たので、詳細には解らなかつたそうである。広いようで狭いという印象。

B 資料 -2) 予定表の相談、3月13日は602号室の方を取り消す。4月10日の分は転室すれば15時からできるが、わずらわしいので601号室の16時からの方にする。-3) 東戸塚講座の企画で佐倉の歴博の通常展示の古代史の部分が新しいC14年代法に従って展示替えがあり、ついでに近くの「房総のむら資料館」に立ち寄り、埴輪と副葬品が多数出た101号古墳、および方墳の岩谷古墳を見学した。千葉屈指の古墳群である。

懇親会5名 津多屋9031円(1800+1500+2000・3) +279円

C 読書 p111 注 反切を読み忘れた。次回読みます。

p113第2章「倭の5王」の探究

1) 倭の5王は戦前ではまったく教えられなかつた。一転戦後は最初の史料事実として教えられた。中国史書宋書は5世紀南朝劉宋(420~474年)、著者は梁の沈約(441~513年)、同時代史料である。宋一斉一梁は禅譲だから朝廷内の文書を活用できた。

2) 宋書の倭国の全資料を古田はこの本に書いた。倭国は高麗の東南、大海の中に在り、世々貢職を修む。

①高祖の永初2年(421年)倭讚、通行。

②425年讚、司馬曹達を遣使、方物を献上。讚死、弟珍立つ自称使持節都督倭・百済・新羅・任那・秦韓・慕韓6国諸軍事安東大將軍。詔は安東將軍倭国王のみ。配下の倭隋等18人の平西・征虜・冠軍・輔国將軍にした。

③430年倭国王済、遣使、奉獻。安東將軍倭国王となす。

④438年 使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓6国諸軍事倭国王となす。

⑤448年倭王世子興。倭国王に任ず。興死して弟武立つ、自称、使持節都督倭・百済・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓7国諸軍事安東大將軍、倭国王。

⑥478年(昇明2年)長文の見事な漢文の上表文をだす。全文紹介。イ)祖彌自ら甲冑を環き山川を跋涉す。

ロ)東毛人55国、西衆夷66国、渡りて海北95国を平らぐ。ハ)にわかにかに父兄を失い、兵を動かさなかつたが、遂に強敵を打つべく決起した。自ら開府儀同三司を仮し、その余は仮授して忠節を勤める。ホ)詔して武を使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓6国諸軍事安東大將軍倭王に除す。

次回日程 19-12-23(月) 15時から18時 603 会議室

20-1-17(金) 15時から18時 601号室